

令和4年度 第1回 ACP 作業部会議事録

日時：令和4年6月13日（月）

午後2時～午後3時15分

場所：さくら庁舎35会議室

1. わたしノート実践報告について *資料1

事例を資料①にまとめた。一人2分で簡単に報告の後、部会長からコメントを頂く。

- ・わたしノートを書くときに、聞く人のスキルが必要となる。「わたしノートマイスター」のようなスキルを持った人を育成できると良い。
- ・普段のケアの中で何気なく話していることを聞くだけでも、その中に本人にとって重要な価値観が含まれている内容があるので、書くことにとらわれなくてもよいのではないか
- ・両親の価値観を知ることができたのも相手を知るためのツールとして活用できている事ではないか。日頃話したことがない話題でもきっかけとなりうる。
- ・グリーンケアとして使用できたというのもよい活用方法ではないか。
- ・施設内で繰り返し話ができるスタッフの育成は大切。
- ・ACPに関心があるスタッフを見つけるツールとして活用できている。病院は協働意思決定の考え方の浸透が難しい。やれるところから取り組んでいくことはよいと思う。
- ・ノートを書きたくないという人についてもそれがその時の本人の価値観なので、素直に情報として「書きたくない」と記載してよいと思う。ただし、なぜかを掘り下げることが必要。
- ・より具体的に実践されている状況が分かる。在宅医療における終末期の関わりで訪問看護は重要。
- ・ケアマネージャーもチームをマネジメントする重要なメンバー。渡すタイミングに悩むことの多い職種である。

2. 地域包括ケアフォーラム要綱（案）について *資料2

グループワークにて協議

1G

- ・フォーラムの流れはこれで良い。

2G

- ・対象者が専門職と民生委員となっているが、分からない人たちに伝えるという形でよいのか？
- ・パネルディスカッションの目的により進行内容が決まってくるので、そこを分かったうえで進めていけると良い。なぜ書くのか、渡すタイミングの難しさがあるので、そこが伝わる内容であると良い。

3. パネリストについて

グループワークにて協議

1G

- ・メンバーとして、訪問看護、ケアマネ、包括、生活支援コーディネーター、介護スタッフなどで良いのではないか。
- ・パネルディスカッションの50分のなかで、中休みの10分ほど、サルビー劇団の協力を得て、寸劇を入れるとわかりやすいのではないか。

3G

- ・パネリストに病院の関係者がいても良いのではないか。病院は本人の意思決定に慣れていない。我々が今やろうとしていることとのギャップがあり、実情を知ってもらうという意味合いもある。

4G

- ・各パネリストからの実践を含めての活動報告とあるが、11月の段階でどこまで報告できる取り組みが進んでいるかが心配である。報告する内容は、具体的な活用や取り組みを、1～3事例紹介し、ディスカッションできると良い。渡すタイミング、活用方法が、苦慮する部分なので、そこが払拭できるような内容になると良い。

アドバイス頂いた内容について事務局で再検討し、サルビー見守りネット ACP 作業部会プロジェクトに掲載するので意見を頂きたい。パネリストについても個別に相談させて頂く。(事務局)

4. その他

保健福祉部会で、ACP、わたしノートについて検討テーマとして協議している。まちかど講座などを活用し、担当者が講義できるようなマニュアルの作成を検討してい

る。ACP 作業部会とズレがないように在宅医療サポートセンターと相談しながら進めていきたい。

サルビーのプロジェクトに投稿してメンバーで共有できるので、活用して欲しい。

(事務局)

事務連絡

パネリストについては7月中旬までに決定していきたいので個別に相談させていただくが、立候補があればお願いしたい。要綱案についてはサルビー見守りネットに掲載するので、確認して意見をいただきたい。皆様は地域に人生会議を広めるキーマンなので、それぞれの部会で啓発活動を行いながら、看取り体制支援プランの実践に尽力して頂きたい。次回開催は現在計画していないが、フォーラムにご出席いただく皆様には打ち合わせなど今後ともご協力いただきたい。